

バカの是非

第6班 月報委員 名倉直利

かの織田信長が本能寺の変で明智光秀に襲撃され横死したときに詠まれたとされる歌詞がある。

人間五十年、下天の内をくらぶれば、夢幻の如くなり…

この先も続くのだが時代劇などでおなじみの名台詞だ。

ある日の飲み会でのこと。

中学の同級生で男児6名、独身だったりバツがあったりそれぞれだが旧知の仲間。

俺らも皆40歳、ひとえに丈夫な体に生んでくれた親に感謝だな。

そんな他愛もない会話。

確か信長や謙信も49歳でこの世を去った

人間五十年、そっか、いつ逝ってもおかしくない歳になったんだよな。

しみじみな飲み会。

そしてなぜか無性に腹が立ってきた、俺ら飲んでいるだけで変わってない！

そうなんだ何も変わってない！

会社で偉くなったとか、そんなん関係ない！

議論百出ののち決まった。

「これからはこのメンツでバカなことをたくさんやろう！」

まだ逝くつもりはないが、いつ逝っても悔いがないようにな！

思いでこそが財産なのだ、プライスレスなのだ！

集まれば中学生に戻れる、一日が長くて楽しかったあの時に！

どうやら私らに付ける薬は売ってないみたいだな。

早速、企画をして行動に移した。

ある年は群馬県より尾瀬に入りトレッキング。

前日の私の万歩計が882歩だったのに終わったら38000歩になっていた。

尾瀬ヶ原と尾瀬沼の周りを午前4時から9時間歩き回った。

終始、携帯が圏外で何度かはぐれてもう会えないかと思ったがなんとか皆で無事走破。

当たり前だが翌日、筋肉痛の塊に。

バカポイントが加算された。

またある年は愛知県の鳳来寺山の本堂までの石段のぼりをした。

その数1425段！

皆には内緒にしてたがほんとは本堂まで車で行けるのよね。

しかし階段を上った先にきっとバカはある！これを信じて。

これ実際登ってみるとわかるが石段の大きさがランダムなので想像以上にきつかった。
最後のほうは5段登るだけで息が切れる始末。
それでも息も絶え絶え登り本堂までたどり着いた！
そこで皆にサプライズを発表、ジャジャン！ここから4時間の山道のトレッキングッ！
ほぼシカトされ誰一人として1mmも喜ばれなかったが、無事完走したよ。
怒りのパワーってすごいね。。
それと人間こんなところもつるのね、そんな新しい発見もあった。
バカポイントが加算された。

こんな事を年一回やってきた。
ポイントもだいぶ溜まったな。

そしてそんな私たちも今年無事50歳になった。
やったぞ信長に勝ったぞ！エイエイオー！バカは健在だ。
しかし足が痛い膝が痛いと言い出すのが増えてきた。
歳をとると注文が増えるな。

そこで今年は趣旨を少し変更。
題して「陸路で日帰りどこまでいけるかな？」

今回の目的地は《史跡 佐渡金山》

ちなみに企画は第一回目から全部、私。
発表と同時に今までダメされてきたためみんなの疑心暗鬼感がビシビシ伝わる。
し、しるかそんなもん。

当日、6時に東京駅集合、50歳過ぎてから朝早いのは得意になった。

新潟まで新幹線で2時間の旅、そこからフェリーに乗る。
予想とは裏腹にほぼ満席。人気あるな、佐渡ヶ島。

高速フェリーに乗り1時間、両津港に着いた。
ちなみに葛飾区こちら亀有公園前派出所の両さん(両津勘吉)はここから名前をとったそうだ。
迎いのレンタカー屋のバンに乗る。
今回は6人での旅、大きめの車、そして持ってきたETCを入れようと探す。

見つからない。あれ？
「すみません、ETCカードの差込口はどこですか？」
店員に聞くと衝撃的な一言が
「佐渡ヶ島に高速道路はございません笑」
笑顔が素敵だったよ、無知でごめんなさい。

そして金山に方面に走り出す、のどかな田舎町、気持ちがいい。



史跡 佐渡金山



カーフェリー

あちらこちらに温泉の看板がある。

小一時間で島の反対側にある金山の地区に到着。

まずはそこにある「きりりうむ佐渡」に寄った。

料金は300円、プロジェクションマッピング？を使って、どうやって金が採れるのかなどを勉強、見入ってしまった。へえーの連続。

かなり作りこんであり素晴らしかった。

程なくして昼食の時間になり近くの海鮮食堂に入った。

やっぱ魚だな！で意見は一致、頼んだ地魚定食は新鮮そのもの。

しかもさすが新潟、米も最高にうまい！

大満足でお会計した。

「どこから来られたんですか？」と店員さんに聞かれた。

「東京です」

「どちらに泊まってるの？」

「実は日帰りなんです笑」

そしたら隣のお姉さんが「バカなの？笑、普通泊まるもんでしょ！」と。

私らには最高の誉め言葉だ。

はいバカポイントゲット！

そのあと日本海沿いを走る。

向こうは大陸だ、波は荒々しかった。

次に行ったのは「北沢浮遊選鉱場跡」

金を採掘するとき工程にある施設跡だ、先ほど勉強したから少し詳しくなっていた。

ちなみに現在は佐渡ヶ島では金の採掘はしてないとのこと。

ここは幻想的だった。

浮いていたら天空の城ラピュタだね、

しばし見とれる。

ほんと手の長いロボットが出てきても不思議ではなかったよ。

そしてメインの佐渡金山へ。

実際、掘っていた坑道に入れる。

コースは二種類。

昭和初期まで掘られていた機械を使った近代的な鉱山跡と江戸時代の手掘りの鉱山跡。

私らは江戸時代の方へ入った。

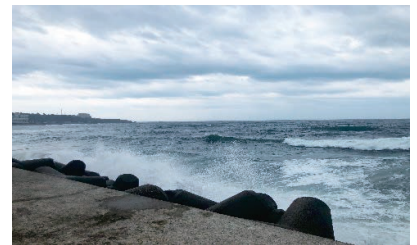
中は洞窟のように冷とした、立派な坑道が永遠と続く。

手作業でここまで掘るにはどれだけの時間を要したろう。

酸欠を防ぐためや地下水を流す坑道も掘られていた。

徳川幕府の時代は直轄地になり厳しい管理のもと採掘されていたそうだ。

当時は金の採掘量が世界一だったらしい。



日本海



北沢浮遊選鉱場跡



坑道 入り口



坑道の様子



御用金船の模型



金塊



新潟の鮨屋

一通り見学して資料館へ、掘り出した道具や金を運ぶ幕府の船(御用金船)などの模型が展示されていた。

実際、金にも触れた。

透明の箱の中に12.5kgの金塊があり、手を入れて引き抜けるらしい。

1億円の金塊なんて当然初見だ。

挑戦してみたが握力のなさに愕然というか金の比重がすごい、ビックリ全然上がらない。

しかし過去に3000人以上が穴から出したとのこと！

すごい、女性の名前もちらほら。

当然、普通のおじさんの私ら残念なことに誰一人上がらない。

他にもトキ保護センターにも行く予定だったが色々に時間をかけすぎて断念。

運が良ければ放鳥したトキを見られるとか、それはまた今度。

夕飯は新潟で予約したお鮨屋さん。

カウンターで6人、日本酒で乾杯。

最高の瞬間だ、お鮨も最高に旨かった。

そこで板前さんが使っていた大きな「まな板」があった。

私は材木屋だよ？よし当ててやろう！

「イチョウです？」

「米桧です。」

あっ、うちは秋田杉屋だった。あはは汗

そしてほろ酔いで最終の新幹線に乗り帰京、24時少し前だった。

佐渡ヶ島、とても良いところでした。申請中だが世界遺産に登録される日も近い気がしたよ。

一日、命一杯遊んだ、バカもやったほんと楽しかった。

ここでこいつら、いつも幹事の私に感謝する、それですべてが報われる。

友人たちよ密な時間をありがとう！

これからもよろしく。

あ、そうそう冒頭の歌詞の意味なのですが実は

「人の世における50年は下天の内の最下の四大王衆天でも一日にしかあたらない。夢幻のようなものだ」というもの。

人生50年って意味ではないのよね、皆には内緒にしておこうかな。

はいバカポイントゲット！

※ちなみにバカポイントは貯めても使えません、あしからずw